

◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：秩父 Petit（プチ）ジオミュージアム

26A-26

代表者：館長 内藤 定芳

URL : <https://rough-moji-2930.sunnyday.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

秩父にも多くの哺乳類が生息しているはずであると常々考えてきた。昭和47年から、日々クマやシカと共に過ごしてきた。野生動物の生息数や生息状況については、県民にはほとんど示されてこなかった。両神地区におけるカモシカの調査以外、本格的な研究がなされたという話は聞かなかった。ただし、東京大学農学部秩父演習林内では長年熊の調査調査が行われていて、現在では論文がホームページでも読める。

筆者らはこれまで、『秩父の巨樹と名木』『秩父の野鳥』『秩父の蝶』を発刊してきた。『野鳥』と『蝶』はいずれも秩父地方で研究や写真観察を行っている諸氏から提供を受けたものである。今回もほぼ同じ手法で冊子にしようと考えた。なお、筆者の手持ち写真は10種程度に過ぎない。市民から写真と情報提供を切望した。

2. 活動の内容

写真展を秩父市上町にある「秩父市市民ギャラリー」で5日間行った。会場係として「ちちぶ観光ガイドの会」会員4名をお願いした。秩父地域の自然、歴史に詳しい専門家集団である。動物の写真は応募いただいたA4サイズを全てA3に拡大して25枚額装した。5日間で参観者は50名弱。全県民の話題にならなかったのが残念である。



3. 活動の成果

これまでの実績もあり、サイサンからの助成も何度もいただいて「秩父の環境シリーズ」の最終章を飾るはずだったのに、後援申請が却下されてしまった。これは行政サイドとしては当然のことかもしれない。結局、秩父郡市内で写真募集チラシをまくことができなかった。秩父市の公民館のネットワークでは一部のチラシを配付できたので、優秀な写真が寄せられてありがたかった。

4. 今後に残された課題

令和5年度は全国でクマ害が報道された。異常な程の状況であった。誰が山からクマを追い出したのか今後調査を深めたい。環境省がクマを今後狩猟対象にするかパブリックコメントを募集しているという。これは野生動物からの警告である。野生動物が減ると、次は人間が減ぶと考えるべきであろう。